Report for Creating Peace and Happiness
Musashino University Creative Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所通信 Vol.176
2026 年 1 月 22 日発行

市民活動領域における評価手法の多様性－社会構築主義的な観点に着目して－

研究員　清水潤子、津崎たから、
中谷美南子

近年、課題先進国とも呼ばれる日本において、地域住民や市民の力への注目が高まり、協働/協同の在り方が問われている。市民が自らの力で自発的・主体的に行っていく活動として、市民活動や地域活動、NPO 活動等が存在するが、多様な活動の価値や意義をどのように引き出していくのかという評価の手法や方法論についての研究は、発展途上にある。

そのため、本研究では、市民活動領域において多様な活動の価値や意義を引き出していくために、評価学において特に「価値論（valuing)」の認識論に基づく評価理論やアプローチに対する理解を深めることを目的とし、共同研究らと先行研究についての知見を深めるための勉強会の実施と全米評価学会への参加を通じて研究活動を行った。

勉強会では、評価学の中でも評価理論やアプローチの体系化を進めた Alkin & Christie(2023)の Evaluation Roots 3rd edition を輪読し、中でも社会構築主義を認識論のベースに持つ価値論(valuing)領域に基づく評価理論やアプローチについて、全 5 回の勉強会を通じて理解を深めた。また、これらのアプローチが実証主義・ポスト実証主義や、実利主義（プラグマティズム）のパラダイムにおける評価理論・アプローチと根本的に何が異なるのかという問いを常に持ちながら評価実践者と議論を深めたことで、研究者自らが関わる市民活動領域における評価支援・実践に役立つ知見を得ることが出来た。

また、全米評価学会への参加から、Alkin & Christie (2023)以外にも、多様な形で評価理論の分類や可視化の方法に関する研究が近年増えていることが明らかとなった（詳細は、第 9 回 Happiness Meeting で研究の進捗状況を報告済み)。この経験は、エビデンスの創出や社会的介入の効果を測ることを目途とする評価が、社会（特に科学や専門領域）において一般的な認識として持たれる中、科学や哲学の発展の経緯の中で評価軸が多元化し、それを評価理論・アプローチとして定位していく大きなディシプリンとしての流れ（うねり）を強く実感することに繋がった。日本の評価研究の領域では、このような認識が限定的であるため、本研究から得た知見を実践の科学の評価として実装できるよう、引き続き努力していきたい。

（研究会の様子）

世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
Musashino University Creating Happiness Incubation
武蔵野大学しあわせ研究所　電話：03-5530-7730
東京都江東区有明３－３－３　メール：mhi@musashino-u.ac.jp